

自然環境改善

酵素活用のプール清掃 展開は 効果・状況を把握し 協議を



みやがわ のりみつ
宮川 徳光 議員

問 当町における川や海の汚染源は主に家庭からの合成洗剤などの生活排水だとの認識は、町とも一致している。

しかし、私たちが長年、利便性を求め続けた結果の認識を変えるのは容易ではないと思われる中、環境改善策などを問う。

まず、以前、環境改善は、当然、行政が取り組むべき課題だとの答弁だったが、町長の認識は。

また、町内の小中学校では、以前からプール清掃で「EM」や「くろし

お元気A-1(あい)」の微生物活性化酵素を活用し、環境改善にもなっている。

このプール清掃方法を行政サイドで、まずは同様の環境改善活動がある四万十市に、更には幡多



酵素活用でプール清掃も楽々に (三浦小学校)

エリアなどに拡げていけないか。

答 松本町長

人と自然の付き合い方をしっかりと考えながらまちづくりをするとの意味では基本的にな変わっていない。自然環境を保全する施策は、今後非常に大事だと思っている。

また、プール清掃への活用は、町内に実績があるので、その科学的な根拠や、さまざまな状況をまず把握して、教育委員会と協議する必要がある。それが効果的であれば、検討をしていきたい。

林業振興

脱炭素社会へ 産業振興策は 町産木材による 事業構築を

問 昨年6月、当町も温暖化防止に向けた「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ」宣言し、脱炭素社会の実現に向けての取り組みが産業振興につながる方向性で行かなければとのことだった。

現時点での、脱炭素関連の林業振興策を問う。

また、全国的な取り組みともなっている「木の駅プロジェクト」への取り組みは。

答 今西海洋森林課長

具体的な林業振興策として、1点目は、本年度より新たに町産木材利用が条件の町営住宅9棟の工事実施を進めている。

同条件での住宅建設は、来年度以降15年で119戸の建設を計画しており、町産木材の活用により一定

の方向性ができた。

2点目は、町内の個人向けの町産材利用に係る補助金について、来年度事業実施に向けての取り組みを現在早急に進めている。個人向けの住宅建設などに町産木材を積極的な利用で、生産から販売までの事業がデザインでき、将来に渡り、持続性のある木材産業に結び付くと考えている。

3点目は、木質ペレットを活用した農業用のハウスボイラーの設置など、バイオマス資源の活用による脱炭素循環型社会の

構築も進めている。

いずれにしても、基本施策としての森林整備は必要不可欠であり、大きな目標として、木を伐つて、使って、植えるという森林の循環利用を今以上に進めて、町内での森林施策を推進したい。また、「木の駅プロジェクト」による薪の活用や地域通貨券については、今後、佐賀地区での道の駅の拡張・整備の計画などに合わせて調査・研究して、林業と商工の両面から検討していきたい。



平成28年に発足した「黒潮薪本舗」の薪割り作業の一コマ。町内の広葉樹を活用し、薪の商品化を行っている (令和4年7月上旬、藤縄)